



の み が わ

2010年1月18日発行(通算第56号)

連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24

発行 大坪庄吾方 呑川の会

呑川の会 e-mail s.ootubo@nifty.com

呑川の会 HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



呑川でカワセミ繁殖の可能性

オス・メス ペアの存在みつける

高橋 光夫

一昨年(2008年)、カワセミが2羽いるところを、改修工事(耐震補強工事・その5)が進む「八幡橋」付近で見つけました。その証拠となる写真を撮ることが、昨年(2009年)の課題となりました。冬期間には見られなかったカワセミが、2009年に初お目見えしたのは、春になった5月でした。



6月に撮影できた写真は、偶然クチバシを上に向けてくれました。下クチバシの下側が赤いのが見えますが、それはメスの証拠です。(白黒の印刷なので判りにくいと思いますが…)

その後、夏期間に見かけたのはメスばかりでした。



そして初秋を迎えた10月、「池上橋」の下でひっそりとたたずむカワセミを見つけました。

カワセミは魚を捕るため、いつも水面を見つめ、下を見てばかりですが、やはり疲れるのでしょうか、一瞬上を見ることがあります。

そのとき下クチバシの下側の色は見ると黒色でした。

なんとオスだったのです。

これでようやく呑川にオスとメスがいることが判りました



そして冬に入り12月、まだカワセミは見られていません。

このときは、身に余る大きさの魚を口にくわえ、バタバタしていました。

このまま、冬越しをするでしょうか…

私はきっと、呑川のどこかにカワセミの巣があるのではないかと考えています。

カワセミのペアの発見は、アユの発見と共に2009年のうれしい出来事でした。

工大橋まで鮎を生息させるために

東京海洋大学 丸山先生訪問記

新幹線下流域の改修工事にともない魚の生息環境は大きく変化するとともに呑川の新幹線上流側に魚が生息していない現状があります。そこで昨年12月22日東京海洋大学の丸山先生にそのような課題についてアドバイスを伺ってきましたので報告します。

河川改修&魚の生息について 下水道横断地点



写真は
道々橋下流の下水道横断地点
落差工 約50cm

- ・水深だと定位しないことが明らかになっている。従って、上流側の水深の確保魚がない(11月) マルタのような川と海を行き来する魚はもう下に行ってしまったのではないか(秋の出水時に海へ下る)、しかしスミウキゴリはなかなか下る魚ではないので、居てもおかしくはないと思う。
- ・横断地点下流に砂が堆積している部分がある
ウナギの住処になっているが、深くないので小魚などは洪水時に流されてしまう、
- ・横断地点をどうやって残すのか？ 落差が欲しいのか、この構造が欲しいのかははっきりさせる必要がある。落差が欲しいだけであれば、実現は可能か。しかし、ボラの遡上を妨げる可能性がある。というのは、1番下流の早瀬を自分たちの上限と認識してしまう性質があるから。でも元々は遡上しやすい種。

・魚の限界水深 体高の 1.5 倍と言われている。しかし小さいイワナの場合、3 倍以上もある 4cm 以下が必要

水深の深いところをどこにつくるか。

橋の下ならどうか。橋は構造的に強く作っているのだから、少くも深く掘り下げることができるのではないか。体高の 5 倍程度の深みがあるといい。

洪水時に魚がとどまる場所が必要

E.g.) 葦原・蒲田の JR 横断地点に葦の湿地を作ると、洪水時に魚が逃げ込めてよい。

また、葦もイカダ式にして設置すると、流積阻害にならずに済む。

ウナギの生息確保

砂がなくても、パイプのようなもので隠れ家を作ってやればよい。だから、上流部分でも流路の中央付近を掘りこんで(池上付近のような複断面)、低水路の壁面部分に蛇籠をはめ込めば大丈夫。しかし、あまりにも低水路部分が狭すぎると魚が登らなくなる可能性があるのと、ところどころに正水域を設けないと上らない。つまり浅すぎたり、流速が早すぎたりすると魚にとっては良い環境ではなく、休息ポイントが必要ということ。

魚の生息適温

水温の変化が直接魚の生息条件になるかは研究が十分ではなく、よくわからない。

塩分の高いところに住む魚ほど、水温が高いほうが有利・・・スミウキゴリにとって 15 (呑川の最低水温)は低い水温。

アユは温水性の魚なので、水温が 10 以下になるとつらい。30 の水温はアユにとって大変な水温だけど、十分な溶存酸素 BO, pH があれば生存は可能。

水温をめぐる呑川の課題

水温の年変化、日変化は少なすぎるのが問題ではないか。日中の温度の急変などが性腺の発達のトリガーとなっている場合も多い。従って水温変化のなさすぎる河川は魚にとって住みにくい。6 程度の水温差があるときぎりぎり大丈夫。礫間吐のようなものを整備し、下水処理水を經由させることによって水温を下げる効果と栄養分吸収の効果が見込まれる。

カルガモが食べているもの

シオグサを食べているのではなく、そこについたカゲロウを食べている



モノアラガイも食べている(非常食として)

画像元: <http://blogs.yahoo.co.jp/pphotoex/17114764.html>

<http://www.geocities.jp/npnfw960/hotaru/04-1/04-3.html>

工大橋まで生息しうる魚は何か？

鯉ではない。水深が必要だし、環境にあまりよくない。

アユ、マルタが一番簡単ではないか。すべて橋の下に深みを持った水域を設定し、そこに蛇籠でもおくことによってなんとか今の水深でも上がってこれるようになるのではないかと。

シオグサ

水温が高くて流量が安定している川に繁茂する

魚が冬活性が低下するのは水温のためではなく、洪水が減少することにより上流・支流から流れ込む栄養分が減少し、植物プランクトンなどの発生が抑制されるため、栄養補給の効率が低下するので活性を下げ、耐え忍ぶ。

(文責 小林 賢司)

次の通り実施しましたので報告いたします

なお、大田ケーブルテレビより取材の申し込みがあり、大河原明子さんが参加されるとともに12月24日の「デイリー大田」で放映されました。



1 呑川流域治水対策効果の見積もり 小林賢治

「呑川の環境カルテ」暫定版というプリントを用意され、呑川についての多角的な報告をした。とくに工大橋の「治水対策の効果と検討」という調査データから道路などへの雨水が浸透舗装をした場合、トレンチをした場合とどう違うかが話題になった。

雨水の量が舗装の違いによって変化することは、越流水の質とも関連することもわかりこの研究をどう生かすかが課題となった。

2 工大橋まで魚を生息させる施策 福井 甫

呑川の会が目標にしている工大橋まで魚が生息できるようにするには、何が問題になるかの提起があった。河口からどの地点まで魚が生息しているかの実態をもとに生息を阻害しているものがあげられた。とくに下水道横断地点までいる魚がさらに上流では見られなくなる原因を大きな落差にあると考えてきたがそれだけではないという点も話題になった。現在すすめられている呑川の工事の改良点をさぐるために次のようなことも考慮したいという話しも出た。

魚の生息条件には 流速の速いところと遅いところが必要。瀬と淵の組み合わせが大切。

河床の石や蛇籠のようなもので流れに変化をつける。水性昆虫のすみかになるような場所をつくる必要がある

川底に泥がたまるように構造(静水域)を考える必要がある。

呑川で野鳥が生息(営巣)できる条件とは何かを考えたい。

本日出席の西日本科学技術研究所の東京事務所長の山内健久さんから貴重なアドバイスと、また「川の外科医が行く」という大部の新聞連載記事も提供していただいた。

3 呑川の夢・呑川の長期構想スケッチ(たたき台)について

福井さんと小林さんが関係資料をだし、高橋さんがメールで書いた意見をもとに話し合った。

「呑川の望ましい姿」「具体的な手段」「実態・検討中の具体策(大田区の基本計画を含む)」「把握・検討すべき事柄」を図表にした資料が出された。別添資料参照

大田区や東京都に意見を出す場合どこにどんな要望をするか具体的に出している必要がある。例えば橋やフェンスには改良する場合どんなデザインが望ましいかも検討する。今後のウオークの際に細かく見ていくことになった。

今後「呑川白書」のようなものでデータをまとめる必要も話題となった。

4 呑川案内板の件 大坪庄吾

1月の呑川ネットに大坪が提案することになっている。概略次のことをふくめ提案したい。

呑川流域の上流から下流までの流域公園に、その地域にゆかりのある呑川情報を書いた案内板を設置する。呑川ネットの会合までに具体案をつくる。

例 歴史的な案内(史跡) 自然の案内も入れる。(魚 鳥 昆虫など)

呑川河口からの里程標を橋ごとにつくる。

河口から何キロメートルかわかるように。または、河口まで何キロかわかるように。多摩川の例も参考にしたい。

呑川散歩道の表示と案内も何か所かに置く。

楽しみながら散策できるようにする。

以上のことと平行して、現在のように車道と人道が一緒になっている道路を、遊歩道に変える運動も視野におく。

橋の改修の際、そのデザインを提案する。

現在改修が予定されている橋は、仲之橋 本村橋 八幡橋(下流側)です。

5 エコフェスタの件 大坪庄吾

10月に雪谷文化センターで行った展示を基本に展示する。具体的には2月6日(土)午後2時からの定例会に提案。エコフェスタは2月21日(日)山王小学校 前日は展示準備。

(まとめ作成 大坪庄吾)

呑川で子どもたちと生き物調査を

大田区との意見交換会の報告

旧聞ですが、呑川ネットと大田区との意見交換会が昨年11月に実施されましたので、その概要を報告いたします。

開催日時 11月12日(木)10時~12時

参加者は大田区は東平環境保全課長、杉村都市基盤管理課長以下9名。呑川ネットから13名、それに都区議員からいつもの奈須議員、公明党が清波議員他2名、緑の党の野呂議員、それに橋本・柳ヶ瀬都議秘書の6名で、特に議員からはこれまでの2名から6名に増えたのが特徴でした。

議事内容として

大田区からは「おおた未来プラン10」の中の、呑川関連項目の実施状況報告、その他前回に呑川ネットから要望した項目についての回答があった。そのなかで注目されたのは

水質浄化対策として東工大、地元企業と協働で大田区版「水質浄化装置の開発を目指す」が、まず本年度は東工大・コンサルタント会社で室内実験を行っている。

河床調査を中央八丁目から京急蒲田まで超音波で調査し、現在データの解析中。

護岸の壁面緑化を3箇所ですすめる

呑川の案内板は23年度から設置予定である。



呑川ネットからは「呑川の魚調査に関する調査」を要請した。

呑川には前号で報告したように鮎を始めウナギ、ナマズ、マハゼ、マルタ、モツゴ、スズキなど、予想以上に多種の魚が生息しているが、そのような事実は知られていない。そこで子どもたちが呑川に入り、網で魚をすくってもらおうというもの。普通大人がすくうより、子どもがすくったほうが多くとれるという。すくった後水槽に入れ一時

的なミニ水族館もよい。これにはさまざまな困難はあるが、なんとか実現させたいものである。写真は久が原・仲池上地区で網で捕獲し水槽で撮影したウナギ。体長約 15 センチ。

参加者全員の 一言 呑川の夢

大田区には「おおた未来プラン10」があるが、これは10ヵ年計画で、呑川に関してはほんの数項目しか触れていない。そこで何年後か、50年先を見据えた呑川に関する長期構想が作成されることを期待し、参加者全員に呑川の夢を語っていただいた。長期構想の作成そのものも多大の困難が伴うが、ましてその実現など夢のまた夢でしか、ないかもしれない。しかしまた呑川に対する夢が大きく、強ければ実現できる可能性もまた大きくなるだろう。

その夢は次の通りです。発言者氏名は略しました。また当日参考に配布した長期構想スケッチのたたき台を別添します。

工大橋まで魚がすめるように河床掘り下げを何か所かしてほしい
世田谷区、目黒区を含め呑川全面復元！川の水を増やす
歩いて楽しい川。心安らぐ川。街路樹が続く川
和泉川のように国の予算と区の予算を合わせてきれいな川に
大田区中心を流れる川なので景観をよくしていきたい
源流の無い川、逆流する川が区民の努力と区の対応でよい川に。関心を持ち続けたい
桜の花が美しい川。子供に引き継いでいける川
子供たちがついのぞきたくなる川
大田区中心を流れる川なので行政一体となって少しづつ復元して一緒にやっていきたい
呑川がきっかけとなって「みんなで何かやれたね」と言える川
川に入ってふれあえる、川のすばらしさを子供もあじわえるように
六郷用水のようにおじいちゃん、おばあちゃんが散歩できる川に
夢をもつことはすばらしい。一緒に前進していきたい。子供たちを育てるために川にふれあう場を
大人がつくってあげることが重要
生きているうちに住民の車以外車の通らない兩岸道路を！樹のある道にしたい
工大橋まで魚がくするように小さな樹から植えて並木を育てる。魚道、虫、自然をかんがえて
自然型川づくりを。川に降りられる親水階段のある公園を。川沿いの学校のグラウンドを利用して遊
水地をつくってほしい
子供が水辺であそべるように、わんどで魚が生息できる場を作ってほしい
呑川の上流と下流では意見が違うが、清流を！縦割り行政をなくしてもっと情報を提供してほし
い
遊水地、貯水池を作ってほしい。韓国のように国の予算を高くし、緑道の緑の管理は民間でやる
ようにしたらよい
夫婦橋公園に魚のプレートがある。六郷用水物語の道のように呑川の道のサインがあってもよい
(文責 福井 甫)

呑川沿岸(工大橋～河口)の樹木

山茶花 (さざんか)

可児 昭雄

冬の寒さを感じながら呑川沿いを歩くと、あちらこちらに「山茶花、山茶花、咲いた道、焚き火だ、焚き火だ、落葉焚き」と童謡に歌われている山茶花(サザンカ)が咲いている。

この樹木は、童謡に歌われはじめた頃は垣根として多く植えられていたが、現在は垣根として使用するにも、梅雨時期に害虫(チャドクガ)の発生が多いため嫌われ、他の樹種に変わっている。しかし花の少ないこの時期に無くてはならない花である。

この花は、同じ仲間である椿(ツバキ)と間違ふことがあるが、椿は春、山茶花は冬に咲き、花が散る時は、前者は花がひとつひとつポトポト落ち、後者は花びらがパラパラと散る



山茶花(サザンカ)

常緑小高木

日本原産

花色・白色等がある。

材は細工物、種子からは油を採る。

参考文献:「四季の花ごよみ」 講談社

春のお花見ウォーキング(玉川上水・残堀川)

4月3日(土)10時15分

白石 琇朗

4月3日(土)立川駅改札 10時15分に集合、市民・北くるりんバスに乗車し、金比羅橋から桜咲く玉川上水を残堀川と交差する上水橋まで歩き、川の両側が桜並木の残堀川を昭和記念公園までウォーキングする。そして玉川上水口から入り、「桜の園」で昼食(生ビールあり)を摂り、柴崎分水と残堀川が並行して流れる園内を沿って散策し、立川口から出て立川駅まで6.3キロを歩き15時に解散する。

残堀川は狭山丘陵から南東に13キロ流れ、立川で多摩川に流入する1級河川で、明治後期までは玉川上水の助水に使われたが、区画整理で付け替え工事をした時に粘土層をぶち抜いたため、雨量の少ない時期は残念ながら空堀になっている。この川は数万年前に多摩川が立川段丘を造った時の名残の川で、玉川上水ができるまでは矢川につながり、谷筋は30キロと今の倍の大きな川でした。

桜のきれいな多摩の珍しい川を、ぜひウォーキングして下さい。

呑川の会に……

入会して半年が過ぎて

東雪谷

島津 良樹

呑川の会に……

…入会させていただきましたが、自分のスタンスが定まらぬまま欲求不満の半年が過ぎました。定例会で皆さんの活発なご意見を聞きながら豊富な経験・知識と先鋭な問題意識にひたすら感服しています。何人かのメンバーのお名前とお顔が最近ようやく一致するようになりました。実は呑川ネットとの関連も本当のところは判っていません。

私はサラリーマン30年と大学教師6年を経て一昨年从无所属です。専門領域は都市工学です。バブル時代からは渋谷とその後背住宅地の調査を人・金・時間をかけて随分やりました。その中で東京城西南の鉄道路線と川の流れがおおむね直交していることに興味を持ちいろいろと川沿い歩きをして来ました。

実は呑川流域の耕地整理の経緯をあらためて調べて見たく、仲池上1丁目の子安八幡神社境内入口の耕地整理完成記念碑建立記録を探ろうかなと考えています。

今年もよろしくお願ひいたします。

今後のスケジュール

現在までに決まっている行事予定は次の通りです。(ハガキによる通知は省略します)

2月6日(土) 呑川の会 定例会 14時~17時

場所 大田区立池上小学校多目的室

主な内容 エコフェスタ準備
呑川案内板・長期構想等

2月21日(日) エコフェスタ in 山王小学校 時間 10時~16時

2月27日(土) 呑川トータルウォーキング上流地区 下記の通り

4月3日(土) 残堀川・玉川上水ウォーク

詳細は別掲(7ページ)「春のお花見ウォーキング(玉川上水・残堀川)」の通り

呑川・上流~河口までトータルウォーキング

まずは上流から・・・2 / 27(土)

「呑川の会」も次々と新会員を迎え、まずは「上流から河口まで」の「トータルウォーキング」をして呑川の現況を把握することになりました。

呑川を知り、深めると同時に、小学校ウォーキングで子どもたちに説明することや、呑川を散策する方のための案内板の内容も考えます。

みんなで楽しい発見をしませんか・・・

(第1回) 2010年2月27日(土) 10時 東急大井町線「緑が丘駅」集合

呑川に来ている渡り鳥が、そろそろ北へ帰る頃です。どのくらいの野鳥が見られるでしょうか・・・?

寄り道をしながら、ていねいに、どこまで歩けるでしょう・・・?

「道々橋」まで、それとも「池上本門寺」まで・・・?

お昼はどこで食べられるでしょう・・・呑川沿いのどこかに休憩でき、トイレのあるところはあるでしょうか・・・

疲れ休めにコーヒーを飲めるお店はあるでしょうか・・・散策をする人の身になって実際に歩いてみませんか。冬ですので14時30分頃解散予定です。

新入会員の紹介

昨年後半から次の方が入会されましたので、ご紹介いたします。

島津良樹さん(東雪谷在住)呑川シンポジウムから

古海信雄さん(石川町在住)他の市民団体からの紹介

高橋恵子さん(北嶺町在住)雪谷文化センターでの呑川講座から

西田二郎さん(石川町在住) 同上

会費納入のお願い

本年度の会費(年2000円)を未だ納入されていない方は払込取扱票を同封しますので、お手数ですが納入ください

<編集後書>

今号は高橋さんのいつもながらの粘り強い観察によるきれいな呑川のカワセミの写真を掲載できました。

また島津さんも会の印象記を寄せてくださいました。みなさんの投稿をお待ちしています。

(編集担当 福井 甫)